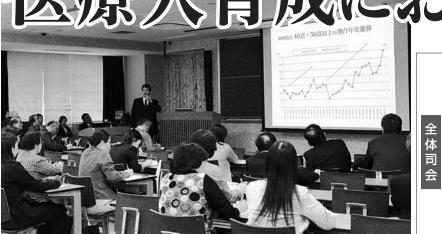
人育成における学生のメンタルヘルスについて



教育関係者らが参加した「熊本県医療人育成総合会議」=熊本大学医学部



熊本大学大学院

生命科学研究部教授

度の学生生活実態調査では、 労度調査などがあります。

学生生活実態調査と、毎年の疲

また、

学生相談室に2012年

校25校を対象に調査しまし 表している医療技術系専門学

臨床心理士が勤務しています

健センターがあり、

精神科医や

からキャンパスソーシャルワー

- (CSW)を導入した結果、

員

支援

力向

から

3年に1度実施する

策を目指しています。 後を見据えたメンタル

熊本大学では、在学中と卒業

ヘルス対

設としては黒髪キャンパスに保

援・対応の現状を明らかにす におけるメンタルヘルスの支

心理士やスク 医療機関と連携、

ルカウンヤ 35 %

自己評価報告書を公

全国の医療技術系専門学校

その結果、

8%の学校

ンセラ は臨床

メンタルヘルスのサポ

、早期発見につなげています

総合大学における現状と取り組み



熊本大学

しする学生が多いため、

と答えた学生には呼び出しを行 る設問もあり、「しばしばある」 の中から消えてしまいたいと思 る気が出ない」などのメンタル 労度調査では「いらいらする」 つながりが希薄な学生へのサポ 「不安になる」「憂鬱になる」「や か」という自殺企図を把握す ルス関連の設問の他に、「世 rが必要となっています。 疲

た方法が考えられます。

今後の課題は、リスクのある

岸川 在学中、卒業後を見据

タルヘルスのリテラシーが必要 はメンタルヘルスのリテラシ になると思います。 卒業後を見据えた対策では、 再訓練の機会を与えるといっ リキュラムとして、それを提 レスへの耐性を高めるメン 卒業後に就職する病院で

教育機関は

医療技術系専門学校における現状と課題

と説明してもらっています。 つでも悩み事の相談に応じる を結び、その先生の授業でい

担任とカウ

ー連携強_化

定心理士とカウンセラー契約

と思い、

20

ヘルス支援が大事だ

はなかなか学生が相談に

カウンセリングを開始。

づらい状況で、

担任とカウ

との連携も不十分でし

本学では、

日本心理学会認

ようですが、

丁寧なオリエ

近くが「誰にも相談せず」と回

人で解決しよう

人との

解決方法については4割

みの理由の最上位は「勉学」で をきたしている学生も多く、

援検討会では、遠隔キャン

清神科医とCSW他が出向い

熊本総合医療リハビリ

員の面談による学生支援が

本学もクラス担任、学内

年時に問題が発現しやすい、国家試験に取り組む最終の面談による学生支援が基の面談による学生支援が基本学もクラス担任、学内教

相談に応じています。

かなり増えました。学内学生支

相談体制が充実し、

相談件数も

な生活」「睡眠不足」などで不調

精神的な悩みや不安」「不規則

学生の早期把握・支援、相談窓 徹底、さまざまな職種がケース の増加、 ・管理、教育課程へのメンタ イケースで対応する複数相談 プライバシー保護の

公道氏

セラーを紹介し、悩みの

には乗るが、

た。そとで各クラスでカウン

九州中央リハビリテ

せる必要はなく、相談内容

昼の時間が長い長日期

に増えました。

時間を一定にしなさい

す。規則正しい生活を きを徹底することで

しなさい、

特に起きる

つの治療法は早寝早起

率で社会不安障害を合

併しています。冬季う

それを支える人材育成を目指す熊本県医療 ・福祉の実現と、 総合会議が11月8日、熊本市中央区本荘の熊本大学医学部キャンパスで開かれ、医療従事 者や教育関係者など約130人が参加した。5回目の今回は「医療人育成における学生のメ ンタルヘルスについて」をテーマに、医療人を目指す学生へのメンタルヘルス保持やサポ 教育関係者5人が現状と課題を多角的に講演した。 学エイズ学研究センター教授の松下修三氏と、熊本大学大学院生命科学研究部教授の宇佐 ーターに、登壇者全員による総合討論、質疑応答が行われた。

つ状態とされた割合が高まった

その後は96年から高

本学のSDSテストでも、う

八程度で推移しています。

現代の若者におけるメンタルヘルス障害の特徴

生の割合が高くなった背景に

うつ状態で入学してくる学

98年に急上昇

していま

平野 均氏

へきな影響として挙げられま か

てれ第一次オイルショック、バッカ急増した83年、88年はそれ

である40~50代の自殺者が多

98年以降、毎年1万200

長期。特に、新入学生の親世代

ル崩壊から7

~8年後の低成

年変化を見ると、

景気動向にリ

しています。国内の自殺者

数が急増した83年、

るSDSなどのテストを実施し

るUPI、81年から抑うつを見

傾向はSDSの得点は女子が高 の逆転が出てきたこと。以前の

は男子が高いという

センター

ら増えていますが、特徴は男女

心にメンタルヘルスを含めた総

本学は保健管理センターを中

が将来の不安を増強させ、心気

口大学では学生のメンタル

てきました。メンタル障害の経

UPIでも女子が上回るように

対人

病気の症状で現れがちです。 サイクルでの問題が自傷という 性性をまとうことによる心身の るのではないかと思います。 の一方で社会進出も求められる 04年から女子学生が変わって とのような生物学的ライフ う社会情勢への戸惑いがあ 女性には第二次性徴期に女 ま

ジの中で生きている女

女子学生の変化が顕著に

況が見受けられました。 がより生きにくくなっている状 ると、男女が逆転し、 緊張など7項目の年次推移を見

ていく必要があるでしょう。 子学生は、

注意深くサポ 絡み合って発症するのだと思 の生物学的なライフサイクル 時代的な背景と個人レベル

ものでしたが、20

なりました。 した脅迫・回避、依存、 因子分析により抽

メンタルのさまざまな病気

女子学生



「医療技術系大学における現状と取り組み」

(脱落) す



九州看護福祉大学教授 保健管理センター長

生困り感調査」の回答率は約30 で働くには資格取得が必要です で配属され、 る学生が少なくありません。「学 程でドロップアウト ク」を行い検討しました。 専門科目の習得と実習の過

応。本年6月からCSWが常勤 のスクールカウンセラーが対 合的な学生支援に取り組んでい ムーズ化しました。CSW導入 にあたり昨年度ワーキンググル 「教職員研修会でのグループワ 医療系学生が卒業後医療現場 プを結成。「学生困り感調査」 保護者との連携・調整がス 非常勤 (週1回) 教職員や関係機 -は常勤の保健師

路変更、 フアウト予備軍を見つけ出して 今後の課題は、いかにドロッ 一身上の都合でした。

るか。 凹意が必要ですが、 いで未成年の学生は保護者の

答しても、その後は適

スマッチ。

が出てきま

す。

は別の方向だったけれす。自分が進みたいの

戸惑うだけですから。

と説いても、温度差に

宇佐美

全体的に学

人はこうあるべきなど

うか。

語を振りかざして医療

の辺はどうなのでしょ

す。白紙の状態で来る 分かりやすく説明しま

あるいはカリキュラム 伝わってしまうのか、 側のストレスが学生

に問題があるのか。そ

へに、いきなり

専門用

授業のカリキュラムで

るので、教育側は緩や

生の学力が低下してい

は、従来の臨床心理学

でストレスが強いと回 割未満です。 4月時点

5

まず、入学時のミ

材を育てるものですか

ュラムは医療関係の

く潜んでいると推測されます。 中にドロップアウト予備軍が多 教職員やセンターとつながって いると思いますが、未回答者の

ション能力の低下やモチベー これを基に教職員のグル ーク実施。学生のコミュニケ

発見のためのストレス

どのようにお考えです ス度は学内の他の学部

に比べ特に高くはあり

るシステムについて、

みた学科単位のストレ

で、全力で支援しま

す。メンタルヘルスの

問題には基礎学力の低

で早期発見できるテス

の事情でもあります。

ますが、それは家庭内

れて来るケースもあり 合、親や先生から言わ

トがあれば活用しやす

とシンプルなチェック ありましたので、もっ

家庭環境や人間関

クリーニングの点数で

が共通目標となるのすれば国家資格の取得

回試行したスクリ

それが医療系の特徴で

の欲求を乗り越えなけ

ムをしたい時期に、

れば資格は取れない

しょう。

児 玉

専門学校の場

ングテストは60項目も

ル障害を早期に発見す

学生のメンタもあるはずですが、ス

早期発見の簡便化望む…辻野氏

児玉氏…入学前の意識付け重要

学生とつながり対応を…岸川氏

う特有のストレスが加

に、なぜ医療系だけと んなに大変なの」とい

わります。モラトリア

退学・除籍は年間50~60人で学 文援につなげるか。 理由の多くは進

までに応じる学生は3

状を出しますが、

100枚の呼び出

かと思い

齋田

本学のカリキ

悪、半数近くが学修や実習に

んでいました。

総合すると生活

コミュニケーショ

動の支援も重要な課題です。

さまざまな学生とつな 対応回数を多くして、 せんので、できるだけ 万法の決め手はありま もあるようです。発見 応できたというケース

親や先生の勧めで入学 ど、自己主張できずに

したケースです。

ま

学生のメンタルヘルス障がいへの対応などについての話があった総合討論

がるというのが今のや

ともあります。

新入生の年代

理テストなどを行うよ

たグループワークやロ

ルプレーイング、心

メンタルヘルスを含め

ケーション論に変え、 概論を柔軟なコミュニ

うになりました。

医療系の学

の道を模索し始めるこ に付いていけず、ほか た、入ったものの勉強

く必要があります。ここ2年のの接点も含めて今後検討してい ション・能力などの課題が指摘 の増加が教職員自身の困り感を マッチ(不適合)」については、 増強させている現状が明らかに なりました。 頻繁に出た 「ミス 人関係や個人の内面、 学生との連絡困難や負担

.育成における学生のメンタルヘルスについて

ています。

毎年、20

いうのが実情ではない

の高い学生を呼び出し 査を行い、ストレス度 調査などさまざまな調

が少数混じっていると

応が一番ですが、難し

さも感じています。

今

おうと、医療人の仕事 る目的を認識してもら

変なのか、

受け入れ

院の実習がそんなに大

がどのようなものかを

トロー

ルが難しい学生

生の中に、セルフコン 適応している多くの学 ませんでした。うまく

因が複雑に絡み合って 係など、さまざまな原

児 玉

本学では合格

が実習で折れてしまう

って入学してきた学生

一番の問題は意欲を持

います。早期発見・対

者に入学前、

本学に来

ことです。

実習先の

いのですが。

テーションやホ 面談などで対応。学力不 ムル ま

効性を感じました。今後、医療 ていきたいと考えています。 機関との組織的な連携を進め 観察している学生の実態との 相関が認められ、テストの有 教員が日ごろ

組みがありますか。ようなうつ予防の取り

まず規則正し

多くなっているからで 則な生活を続ける人が 増えているのは、

しょう。今は季節感の

を習得してもらうため定期的 任とカウンセラーの連携を強リングのシステムづくり。担 リングのシステムづくり。 と思います。課題はカウンセ 果、学生に行動する力や勇気 化し、担任に学生との接し方 が備わってきたのではないか がカウンセリングを受けた結

程では国家試験や厳 かえばよいと考えてい い実習などのストレス 学生を育てる方向に向 施設、お金を投入し、

> うに思いますが、入学 とはなかなか難しいよ す目的を明確に持つこ にとって医療人を目指

自由にやっているの 生には、「他の学部は

研修会を行っています。 な学習となるリメディアル教 足とも関係するため、補完的 た、教員のメンタル支援力向 育にも取り組んでいます。 行しましたが、 上に向けて臨床心理士による スクリーニングテストを試

た。そのような冬季う

人の割合でし

つの人は、

かなりの確

り方です。スタッフや

いのは学内教員によるメン

ヘルス支援で57%でした

と連携しています。最も多

調査したところ、

私たちが動物であると

いました。季節変動は

してやれば、積極的な いようにするのも意識

うつ予防といえません

までかかわるかを明確化する るため、カウンセラーと学校 た、根底には家庭の問題があ 組み)を開催しています。 にFD(教育力向上への取り (担任) が学生と家族にどこ ま

別名「冬季うつ」の人

たり

した生活ができて

中に季節性感情障害、

は秋冬になれば、ゆっ

しています。新入生の い生活をするよう奨励

ない、

24時間社会。昔

がどれくらいいるかを

には、 要因や季 物学的な いう背景 す。ミス 影響して 節変動も やる気が 感じる、 出ないと マッチを 生

とを自覚させてくれま

ルカウンセラーにつな す。その結果、 て身近な存在になりま

平野氏…生物学的な見地も必要 相談をセンタ に集約…齋田氏

ストの結果を示されま 女子に対人緊張が多く したが、学校ではどの 参加者 平野先生は す。 にはカーテンを開けて いるのではないでしょ り症状が楽になりま がリセットされ、かな 寝るだけでも体内時計 うか。それを無視し、 抑うつ状態の人が だけでサポー 心理学的なアプローチ しても

なったというUPIテ

の相談に乗ったり、ま ンターの垣根を低くし たり、教員たちが学生 効果は薄いと思いま 宇佐美 保健管理セ

不規

た学生が相談に来やす ります。入学時には4 全学年の健康診断があ 種の抗体価検査を行 指導にスタッフがかか 理センターで管理し、 を受けさせます。これ わります。各クラスに らの検査結果は保健管 低ければ予防接種

ら必ず領収書持参でセ スタッフが出向いて説 す。予防接種を受けた 明し、質問も受けま 学生が一度はセンター とを義務付けるなど、 ンターに報告に来ると

センターが学生にとっ を訪れなければならな いようにすることで、

り、非常に育てにくく のような育て方にな くなっている一方でこ す。医療の現場は厳 れでも乗り越えられな ています。しかし、 かなステップアップで なっていますね。 学習プログラムを作っ いという実態がありま 本学では春に